



2025年2月25日

各位

会社名 愛三工業株式会社  
代表者名 取締役社長 野村 得之  
(コード番号 7283 東証プライム・名証プレミア)  
問合せ先 経営企画部 広報IR室 室長  
廣井 千陽  
(TEL. 0562-48-6215)

## 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2025年度から2030年度までの中期経営計画(以下、「本中期経営計画」という。)を策定しました。掲載先はこちら ([中期経営計画 | 企業情報 | 愛三工業株式会社 \(aisan-ind.co.jp\)](https://aisan-ind.co.jp)) で、概要を下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 策定の背景

現行の中期経営計画(2023~2025年)では、パワートレイン製品事業において、フューエルポンプモジュールの世界シェアNo.1を実現しました。さらには、電動化製品事業・クリーンエネルギー技術活用において、アンモニア水素燃料電池発電の実証実験を開始するなど、次世代につながる成果をあげました。

また、2025年度経営目標を前倒しで達成見通しであることから、改めて計画を見直し、本中期経営計画を策定しました。

#### 2. 愛三グループの目指す姿

VISION2030 この手で笑顔の未来を

「クリーンで安全・安心なモビリティの実現」と「暮らしやすい豊かな社会へプラス1の価値創出」を  
かけ、事業に取り組んでまいります。

#### 3. 事業戦略

##### ① パワートレイン事業

エンジン領域を最後まで支えるグローバルNo.1メーカーとして、エンジンシステムサプライヤーを目指します。そのために、独自開発の強化に加えて、M&A・アライアンス等の幅広い選択肢も視野に入れ、競争力を強化し、併せて地域ごとの環境変化に対応し、グローバル最適生産体制を構築してまいります。

##### ② 電動化製品事業

「エンジンで培った技術」と「ものづくり力」を活かし、2輪BEV・4輪HEVをターゲットに電池システム・電動システムの事業化を目指します。

##### ③ 未来社会(クリーンエネルギー・ものづくりソリューション)

水素・アンモニアの既存技術を活かし、非モビリティ領域にも挑戦します。

また、部品製造現場の知見を持つ当社ならではのノウハウを織り込んだ協働ロボットを活用したパッケージを提供することで、人手不足に悩む製造業の困りごと解決に貢献します。

#### 4. 財務資本戦略

事業拡大と資本効率の両立を目指し、事業規模・収益性・資本効率のバランスを確保した経営目標値を設定しました。

	2024年度予想	2027年度目標	2030年度目標
売上高	3,300億円	3,500億円	5,500億円
営業利益 (率)	210億円 (6.4%)	270億円 (7.7%)	440億円 (8.0%)
純利益	140億円	175億円	280億円
ROE	10.0%	12.0%	14.0%
ROIC	9.2%	9.5%	11.0%
為替	152円 / USD	145円 / USD	145円 / USD
PBR	1/31時点 0.84倍	早期に1倍以上を達成し、持続的向上を目指す	

安定配当を維持しつつ、連結配当性向を 35%以上とし、併せて機動的に自己株式を取得し、株主還元を強化いたします。

#### 5. サステナビリティ経営の推進

当社の経営理念・サステナビリティ基本方針・VISION2030 に基づき、ESG 課題を設定し、取り組みを強化いたします。

##### ① E (環境)

新たな目標を設定し、温室効果ガス排出量削減に取り組むとともに、新分野へ将来製品を市場投入し、持続可能な循環型社会の構築に貢献します。

##### ② S (社会)

2025年5月竣工の「Aisan みらい工場」をロールモデルとして、バリューチェーン全体でインダストリー5.0の実現を目指します。

また、事業戦略と人財戦略を一体化させ、「自律的に学び、考え、果敢に挑戦する」人財を育成することで、成長し続ける組織と人づくりを目指します。

##### ③ G (ガバナンス)

コーポレートガバナンス体制の強化をはかり、経営と執行の分離を更に推し進めるとともに、内部監査の強化や開示を充実させることで経営の透明性を確保してまいります。

以 上